

陳情第3号

国の制度として18歳までの医療費無料化を求める意見書の提出を求める陳情書

(陳情趣旨)

岸田首相が、今年1月4日新年の記者会見で「異次元の少子化対策」と発言し、その具体化と予算措置が極めて注目されています。その点、流山市及び市議会において、今年1月から、学校給食費一部無償化の実施に続き、子ども医療費助成を今年8月から、18歳まで拡大するための準備と千葉県知事への意見書提出は画期的であり、先導的役割と言えます。

しかしながら、子どもや子育て世代を取り巻く環境は、新型コロナウイルス感染症の影響にくわえ、諸物価高騰が連続的に続き、生活困窮や深刻な貧困化が相次いで報道されています。また、コロナ以前から問題となっていた少子化にも拍車がかかっています。

子育ての大きな不安の一つに、子どもの病気があります。子どもの医療費の心配を無くすことで、全ての子どもが健やかに成長を保障することは、少子化対策にとっても益々重要となっています。

どこで生まれても、どこに住んでも、全ての子どもに必要な医療が平等に保障されるのは憲法25条に照らしても当然であり、そのためには子ども医療費助成制度を国の制度として創設することが求められます。

そこで、以上の趣旨を踏まえ、下記項目を含んだ、意見書を国へ提出していただきますようお願いいたします。

(陳情項目)

- 1 18歳年度末までを対象とする国の医療費窓口負担無償制度を早期に創設してください。
- 2 子ども医療費助成を現物給付した自治体に対する国民健康保険国庫負担の減額措置を廃止してください。

令和5年2月3日

陳情者

流山市議会議長 森 亮二